

# 補助犬について 理解を深めましょう



このようなマークを見たことはあるでしょうか。マークにある「ほじょ犬」は、正式には「身体障害者補助犬」のことで、障がいのある人の社会参加や自立を手助けする犬のことです。

補助犬は、盲導犬・介助犬・聴導犬の3種類があり、次のような役割を担っています。

○盲導犬：目の不自由な人のために、道路での安全確認などの、移動の補助をする。

○介助犬：肢体の不自由な人のために、簡易な日常動作の手助けをする。

○聴導犬：耳の不自由な人のために、電話やブザーの音を伝えたり、音源への誘導を行う。

厚生労働省によると、2020年10月の実働数は、盲導犬が909頭、介助犬が57頭、聴導犬が64頭、となっています。県内ではそれぞれ2頭・2頭・1頭となっています。

盲導犬は広く知られていますが、介助犬や聴導犬は、社会的認知が十分であるとはいえません。

補助犬について確認しておくと、まず、補助犬はペットではありません。法律に基づいて認定された特別な訓練を受けた犬のことです。身体の不自由な人にとって身体の一部と考えられるでしょう。マナーの訓練や手入れにも注意しているの、衛生面でも安心です。また、なるべく補助犬として有効な犬を選んで訓練しているの、見守っているだけでは、吠えたり、噛みついたりすることはありません。

補助犬導入当初は、盲導犬に道路交通法による規定があるだけで、介助犬と聴導犬は法的な位置づけがなく、一般的なペットと同様の扱いでした。そのため、公共の施設や交通機関でさえも、受け入れられない状況がありました。

そこで、2002年に身体障害者補助犬法が施行されました。この法律は、補助犬の訓練事業者や使用者の義務を定めるとともに、公共的

な施設や交通機関を利用する際に、補助犬を同伴できるようにするためのものでした。さらに公共機関だけでなく、ホテル・デパート・レストランなどにも広がりました。しかし、残念ながら法律ができた現在でも、補助犬への理解が進んでいないとも言えます。補助犬の同伴拒否の問題が起きています。今後さらに補助犬が普及するためには、補助犬のことや補助犬法についての理解が必要不可欠です。

最後にありますが、盲導犬がハーネス(盲導犬が装着する胴輪)、介助犬や聴導犬がコート(表示あり)を装着している場合は、仕事中です。触ったり、餌をあげたりしないよう注意しましょう。補助犬について理解を深め、障がいのある方々が、社会参加しやすい社会を創ろうではありませんか。

(参考：厚生労働省ホームページ、徳島県高等学校人権学習資料集「じんけん」)

市人権推進課(市教育庁舎1階)  
TEL 32・2122  
FAX 33・3525  
Mail:jinkensuisshin@city.komatsushima-tokushima.jp

市人権推進課(市教育庁舎1階)  
TEL 32・2122  
FAX 33・3525  
Mail:jinkensuisshin@city.komatsushima-tokushima.jp

## 市民文芸 花みずき歌壇 (388) 松並敦子・選

寂聴忌となりし霜月九日よ白寿でひと世を見極め給う  
横須町 山崎 泰子

遠つ人松は冬色井戸被り癌と闘う友を思いぬ  
松島町 萬野 行子

電線に一羽の鳩が止まりいて吾の着替えを窓から覗く  
田浦町 太田カツミ

会場の呆るる問いにもひるみなく寂聴さんを尚更好きに  
江田町 深田 伴子

久々の我が家は嬉し青畳ゴロゴロ転げて「フウ」と息吐く  
横須町 福島 夢栄

五十代の友が頬染め話す恋熱き想いが少し眩しき  
間新田町 瀧川 益美

雀らよ刈田からまた刈田へと急ぎ飛びゆく何を急ぐか  
田浦町 西 教明

春蒔きのサンドを秋に蒔いてみる実花咲かせて収穫近し  
赤石町 田原トシ子

名も知らぬ小さな虫を遊ばせて白き山茶花ひそかにゆれる  
立江町 湯浅かや子

歳時記より秋の季語いくつか消えゆかん赤とんぼに逢えず  
中田町 松並 敦子

蜩聞かず